

平成 30 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 福光園グループホーム やすらぎの家

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900441		
法人名	社会福祉法人柏寿会		
事業所名	福光園グループホーム やすらぎの家		
所在地	岩手県一関市真柴字はの木立 43-96		
自己評価作成日	平成30年5月20日	評価結果市町村受理日	平成30年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0370900441-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0370900441-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年7月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご本人様と家族様になるべく一緒に時間を過ごせるよう配慮しています。また一か月に一度家族様へお手紙を送り近況報告などしています。定期通院など遠方の方や高齢の為通院困難な方への対応は施設の方で3月から実施している。ケアプランは六か月更新としご家族様へ説明・同意を得てサインを頂き、ご家族様の希望に添ったプランの作成となっている。ケアプランチェック表を用いての課題抽出、プラン作成、会議でのモニタリングをし、職員から意見をもらい再度アセスメントする流れにより新たな課題の発見に繋がり、ご本人の意向に添えるプランとなっている。緊急時の通院に関しては、体調不良のまま夜間帯まで繋がらず、早い段階での判断・行動を実施し重症化を未然に防いでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、「一人ひとりの利用者に寄り添う時間を大切に」を方針とし、業務改善に取り組み、法人では、パート職員を雇用し、業務改善に取り組む職員を支援している。共用のホールでは、職員に爪切りをし、貰っている利用者を、ニコニコしながら見ている利用者があり、また、職員が、2人から3人の利用者の会話を繋げている等、寄り添いにより、利用者職員相互の安心と信頼が深まり、利用者が穏やかに生活できる介護を提供している。利用者家族との係わりを大切に、行事への招待や利用者との外出支援を実施している。家族アンケートの要望から、定期通院など、遠方や高齢で付き添い困難な家族の場合、今年3月から職員が通院を支援している。水分摂取、排泄チェック、血圧等体調管理を徹底し、体調不良時には早い段階で対応し、重症化を防いでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

平成 30 年度

事業所名 : 福光園グループホーム やすらぎの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	柏寿会の理念を基本とし、事業所の理念を作成し理念に基づき日々の実践に生かしています	法人の理念に基づき、事業所の理念を策定し、職員会議(毎月)で読み上げている。理念にある寄り添うことを重点目標とし、職員は毎日1時間の寄り添いの時間を実践している。その効果として笑顔が見られ、穏やかに生活できているのはその効果と、職員自身が感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人・地区行事・運営推進会議・外出等の機会に交流が図れています。地域交流として市内保育園児との交流会あります。	自治会に加入し、地区行事に参加している。推進会議の委員の区長から、地区の情報を頂いている。保育園との交流(年2回)が継続されており、行事終了後の園児との食事は、利用者の笑顔が見られる貴重な時間である。生け花(月2回)・歌、傾聴(2人・月1回)のボランティアが訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の際など、入居者と職員の自然な関わりを見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・民区の代表者については会議に参加して頂き様々な意見を頂いているが、ご家族の参加が乏しく充分とは言えません。	推進会議は、利用者・家族の代表、民生児童委員、市職員を委員として定期的開催し、生活状況(外出・行事・事故ひやりハット等)を報告している。前所長であった委員からは、事故やひやりハットについて、改善のための技術的な意見・助言を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の行政の方などから助言を頂いたり、両盤ブロックの研修会の際の報告や助言を頂く形を取っている。	市からは、運営推進会議で活動への助言を頂いている。また、両盤ブロック研修会において、情報や助言を頂いており、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間帯に関しては夜勤1名体制あること・防犯の理由により施錠を行っている。日中においては自由に出入りできるようになっている。4月より身体拘束廃止検討委員会を発足。職員に研修として身体拘束について周知して頂いている。	4月に身体拘束廃止検討委員会を設置し、年4回の研修を予定している。今年のテーマにスピーチロックを取り上げ、理解を深め実践している。夜間は、玄関に施錠しているが、日中は、玄関やベランダ等の出入り口を開放し、自由に出入りしている。立ち上がりにつらつき等の危険がある方には、床センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間おスケジュールにて会議の中に内部研修として職員に法律の周知などを徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ資料を活用し学ぶ機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はすべてにおいて、重要事項説明書・契約書を説明しています。また不安などあれば相談をいつでも受け付け対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で意見・要望など聞き入れる場として設け、面会時などにも気軽に意見してもらおう事や家族様へのアンケート調査を実施し改善点などを明確にし、運営に反映させている。	運営推進会議に参加した利用者・家族から意見を聞いている。通院の付き添い困難な家族には、3月から通院支援を始めたが、これは家族アンケートに寄せられた家族の要望がきっかけである。やすらぎの家だより(月1回発行)に、利用者の個々の生活状況を記載し、家族に届けている。家族が参加できる行事を増やし、お花見では、参加した家族も一緒に事業所に戻り食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回の面接評価の場を設け意見や提案などももらうようにしている。また年二回の面談の他必要に応じて職員の意見を聞く機会を設けている。	年2回、職員が事前に自己評価表を提出したうえで、管理者と面接している。評価を受けることで、職員が会議で意見を活発に意見を述べるようになったと管理者は感じている。職員が中心となって取り組んでいる「寄り添う時間を増やす」との業務改善の成果と思われるが、利用者の外出の機会が多くなっており、ケアの質の向上に繋がっているとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に上層部への相談・報告を意識し、労働環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議で内部での研修を行いスキルアップに繋げる事や外部の研修にも積極的に参加して行き個々にあったケアの質の向上を目指していく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	両盤ブロックの研修・法人内研修または親睦会活動を通し、同職種の交流の機会を作り意識向上を図っています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時などにおいて「ご本人の思い」を聴き取り本人の声としてプランに載せています。傾聴を行いながらご本人が安心できるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には入所申し込み時に要望等を時間を掛け聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、実際に必要としているサービスを含めた対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭においた介護の提供により、共同生活、フロアの掃除や食事作りなど一緒に行い共に生活している関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と入居者様が一緒に過ごす時間を意識し行事を企画している。(お花見、紅葉ドライブ、食事会など)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅・美容院・スーパー・飲食店への外出支援を行っている。	家族の協力を得て、利用者の外出支援に取り組んでいる。利用者は、通院時の外食を楽しみにしている。職員と一緒にスーパーへ食材の買出しや衣料品店に出掛けた際に、地域の方との交流が出来る。友人やかつての仕事仲間が今でも面会に来ている。馴染みの美容院へは、送迎だけではなく、終わるまで一緒におり、寄り添いの時間となっている。男性の利用者は、訪問理容を利用しており、理容師との馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を良く理解し他者との関係構築が円滑にできる様中継ぎ・仲介と必要に応じた支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に於いては、ご本人様に会いに面会に行くなどしたり、ご家族様に退去後の様子を聞き支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望や意向に添った介護の提供、ケアプランに於いて本人の声でして反映させています。	今年度の重点目標に、利用者や寄り添う時間を増やす取り組みを掲げ、本人の希望や意向の把握に努めケアプランに反映させている。言葉で意思を確認できる方が多く、日々の会話から意向などを把握している。言葉で意向を表現できない利用者にとっては、普段の行動や仕草を観察し、意向や希望の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々にフェイスシートを職員で作成して頂き、過去的生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方を尊重し、職員間で情報の共有を図り、その入居者様にとって最も良い過ごし方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議に於いて検討会を開催し、計画書2と介護支援経過を用い現状の課題で良いのか、サービス内容などの検討を踏まえ、プランの作成をしている。	介護計画は6か月ごとに見直しをしている。職員会議で、介護計画書2と担当者が記入した介護支援経過から、新たな課題の抽出や継続等を検討し、計画を作成している。介護計画は家族に説明し、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース入力し申し送り事項として介護日誌に反映させ職員で閲覧し、その日の職員間でミーティングし見直しをしている。また一か月に一回の居宅介護支援経過にて担当者が一か月のケア内容などをまとめ、他職員間との情報共有としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等ご家族様が遠方の方や高齢で通院付き添いが困難と思われる方などに対しては施設側での通院対応としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどを活用したり、世代間交流なども活用し暮らしを楽しむ事が出来るよう生きがい作りに取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人様またご家族様の希望に添ったかかりつけ医とし、情報提供書の作成をして連携を図っています。	入居前のかかりつけ医を継続している。受診時、家族が同行する際には情報提供書(事業所での生活や健康状態)を家族に渡し、医師に伝えている。家族の同行が困難な場合は同行した職員が、口頭で医師に情報を伝えており、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活に於いて職員間での気づきに基づく情報共有にて異常の早期発見・早期対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院はいずれも文書に情報提供、口頭による共有を図り連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約段階から、今後の在り方を共有し同法人の特養への入所の申し込みも努めています。重度化した際には、出来る限りの身体介護を提供しています。	入居時に、重度化した場合の対応について家族に説明している。看取りについては取り組みを行っていないが、できる限りの身体介護を行なうこと、医療機関や他の介護事業所の利用について支援することを理解していただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会・職員会議での研修などを実施し、急変時など、的確に行動できる様訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施と災害対策マニュアルを掲示し近隣住民の方にも参加して頂いている。	消防署立会いを含めて年2回の避難訓練を実施し、近隣の方の参加も得ている。非常呼び出し訓練を実施している。夜間については、夜間想定訓練を実施している。	夜間の訓練を経験されることを期待する。法人の他事業所から離れた場所にあり、近隣の他法人介護施設との関係作りを検討されたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関しては、入居者様に不快な気分を与えないよう対応している。	利用者と職員の関係を再確認し、尊厳を持って処遇するよう研修し、ケアの質を高めている。慣れからの、近い人に使う様な言葉に注意している。共用の居間で歯磨きをしなければならない利用者には、歯磨き場面が見えないよう仕切りを工夫している。また、居室のポータブルトイレは、見えないよう工夫して配置している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選ぶ権利を念頭におき、入居者様ご本人の自己決定を引き出す支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご本人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の人格を尊重し、その人らしい必要な支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の説明を食前に行い「見て、知って食べる味」の提供をしています。調理に関する一連の流れとして入居者様が出来る範囲で手伝っている。	食前に、献立の説明をし、食べる楽しみに繋げている。献立は、利用者の希望を取り入れ、職員が作成し、法人の栄養士の指導、助言を受けている。食材は2日分をまとめてスーパーで購入し、利用者が同行することもある。利用者は、ゆっくりでも自ら配膳下膳を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回の法人栄養士による指導を受け、栄養のバランスに配慮し、水分は一日1500cc～1800ccを目標に職員共通意識の上で支援させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立・一部介助・全介助に応じて、誤嚥性肺炎予防・歯周病予防に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表に記入しデータ化する事により適切な排泄誘導に繋げる事が出来ている。	水分摂取量・排泄量の管理を徹底し、適切な排泄誘導を実施している。また、排泄用品を利用し、トイレでの排泄、自立の継続に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	麦ごはん・バナナ・ヨーグルト(ヤクルト)・飲むヨーグルト・アーモンド効果などの摂取・活動量・水分摂取量などにより自然排便を促す対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は選択できないが、入りたいという希望があれば、入浴予定者を変更するなどし調整している。清潔保持の為に入浴しない日には陰部洗浄、下着交換、靴下の交換をしている。	入浴は毎日準備し、1日3人を目標に週2回入浴できている。時にシャワー浴を行なっている。入浴しない日には、下着・靴下の交換、陰部洗浄をし清潔を保持している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調など応じたり、目視による状態観察を行い無理のない日課を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬時情報を基に説明を行い、配薬の際は本人に分かる言葉で説明を行っています。また臨時薬については経過観察を必須として、結果を次回受診時に繋げています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活面ではそれぞれ役割を持って頂く事で日常生活に張りがある。職員が会話の中に入り雑談などで笑う機会を作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回程度の家族様との合同ドライブ・ご家族様との外食会・日用品の買い物・地区行事参加等、出来る範囲での支援を行っています	今年度は、寄り添いの時間を増やすことを目標に掲げており、日用品の買い物等の個別の外出機会を増やしている。また、家族と一緒にのお花見や外食ドライブを実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在3名の方が自己管理しており、買い物などの時に使ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がご家族様に電話を掛けてから、ご本人に代わって頂き会話する支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造で既存の建物を活用しており、入居者様にとっては馴染み深いものになっていると思われます。広さ的にも安心して過ごせる環境なのだと思います。	既存の建物の良さを生かし、居間兼食堂は自分の家と感じられる落ち着いた空間となっている。見晴らしの良い窓から緑の景色が目飛び込んでくる。生花(生け花ボランティアの作品)が飾られ、フローリングの床は掃除が行き届いている。職員に爪きりして貰っている利用者をニコニコしながら見ている利用者、ゆっくり職員と会話している利用者等、職員の寄り添う姿が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・居室廊下にソファを置き誰が使っても良いのとゆっくりと過ごせる環境を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前に使われていた愛用の家具等の持ち込みをされている方がおり、居心地よく過ごせていると思います	居室には、ベッド、クローゼット、暖房機、換気扇が設置されている。テーブル・椅子・テレビを持ち込まれている。仏壇を持ち込んでいる方は、毎日お水を交換している。部屋は掃除が行き届き、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立で歩けるように職員側も配慮し段差のある場所を教えるなどし事故を未然に防ぐ支援をしています。		